

内閣府「社会的インパクト評価の実践 による人材育成・組織運営力強化調査」

最終報告会ーインパクトを魅せるー

2017年3月1日

議事次第

1. 開 会
2. ご挨拶
3. 事業概要、社会的企業・委員紹介
4. 社会的インパクト評価の実践に関する報告
5. 伴走型支援の概要
6. 委員からのコメント
7. 質疑応答
8. 閉 会

2. ご挨拶

3. 事業概要、社会的企業・委員紹介

事業の目的

「社会的インパクト評価」の

1. 具体・優良事例の創出
2. ノウハウ・実務上の課題の共有
3. 上記を達成するための研究会の設置・開催

＋社会的インパクト評価イニシアティブとの連携



昨年度の「社会的インパクト評価検討ワーキング・グループ」での議論

実施内容

研究会 (4回)

- 「社会的インパクト評価」に対する専門的指導・助言
- 「社会的インパクト評価」を行う上で参考となるノウハウや、実務上の課題についての議論
- 社会的企業が「社会的インパクト評価」の必要性やその方法について理解し、気づきを得る機会

事前研修会 (1回)

- 社会的インパクト評価の内容や手法に関する説明
- 評価実務を行う社会的企業担当者が「社会的インパクト評価」の評価作業を「体験」する場

報告会 (3回)

- 「社会的インパクト評価」の実務を通じて得られたノウハウや実務上の課題を持ち寄って報告・議論
 - 広く公開することによって、他のNPO等の団体が「社会的インパクト評価」に取り組む際に参考となる情報を提供
-

評価を実践する社会的企業

企業・団体名	主な事業
株式会社K2インターナショナルジャパン	<ul style="list-style-type: none">・ ニート・引きこもりの若者に対する就労移行支援事業・ 合宿生活を主体とした若者の自立支援プログラム・ 海外での就労体験プログラム・ 雇用環境の確保、等
認定特定非営利活動法人Switch	<ul style="list-style-type: none">・ 障害福祉サービス事業所（スイッチ・センダイ、スイッチ・イシノマキ）・ 困難を抱えた青年期の就学・就労支援（仙台NOTE、ユースサポートカレッジ石巻NOTE）・ メンタルヘルスリテラシー教育（予防教育事業）、等
特定非営利活動法人マドレボニータ	<p>【1】教室事業</p> <ul style="list-style-type: none">・ 産前・産後のボディケア&フィットネス教室の開催 <p>【2】養成事業</p> <ul style="list-style-type: none">・ 産後セルフケアインストラクター養成コース <p>【3】調査・研究・開発事業</p> <ul style="list-style-type: none">・ NECワーキングマザーサロン・ 『産後白書』『産褥記』シリーズ、『マドレジャーナル』の発行・ 新規プログラムの開発。

研究会委員

氏名	所属
岸本 幸子	公益財団法人パブリックリソース財団 代表理事・専務理事 事務局長
北大路信郷	明治大学ガバナンス研究科 教授
黒石 匡昭	新日本有限責任監査法人 パートナー
玉村 雅敏	慶應義塾大学 総合政策学部 教授
塚本 一郎 (座長)	明治大学経営学部 教授
馬場 英朗	関西大学商学部 教授

※五十音順、敬称略

実施スケジュール

会議等	実施日
✓ ■第1回研究会	2016年6月29日
✓ ○事前研修会	2016年7月11日
✓ ■第2回研究会	2016年8月2日
✓ ◎第1回中間報告会	2016年9月2日
✓ ■第3回研究会	2016年10月31日(月)
✓ ◎第2回中間報告会	2016年12月1日(木)
✓ ■第4回研究会	2017年2月14日(火)
◎最終報告会	2017年3月1日(水)

4. 社会的インパクト評価の実践に関する報告

ネットワークの力で若者支援を

K2 INTERNATIONAL GROUP

K2 インターナショナルグループ



認定特定非営利活動法人 Switch



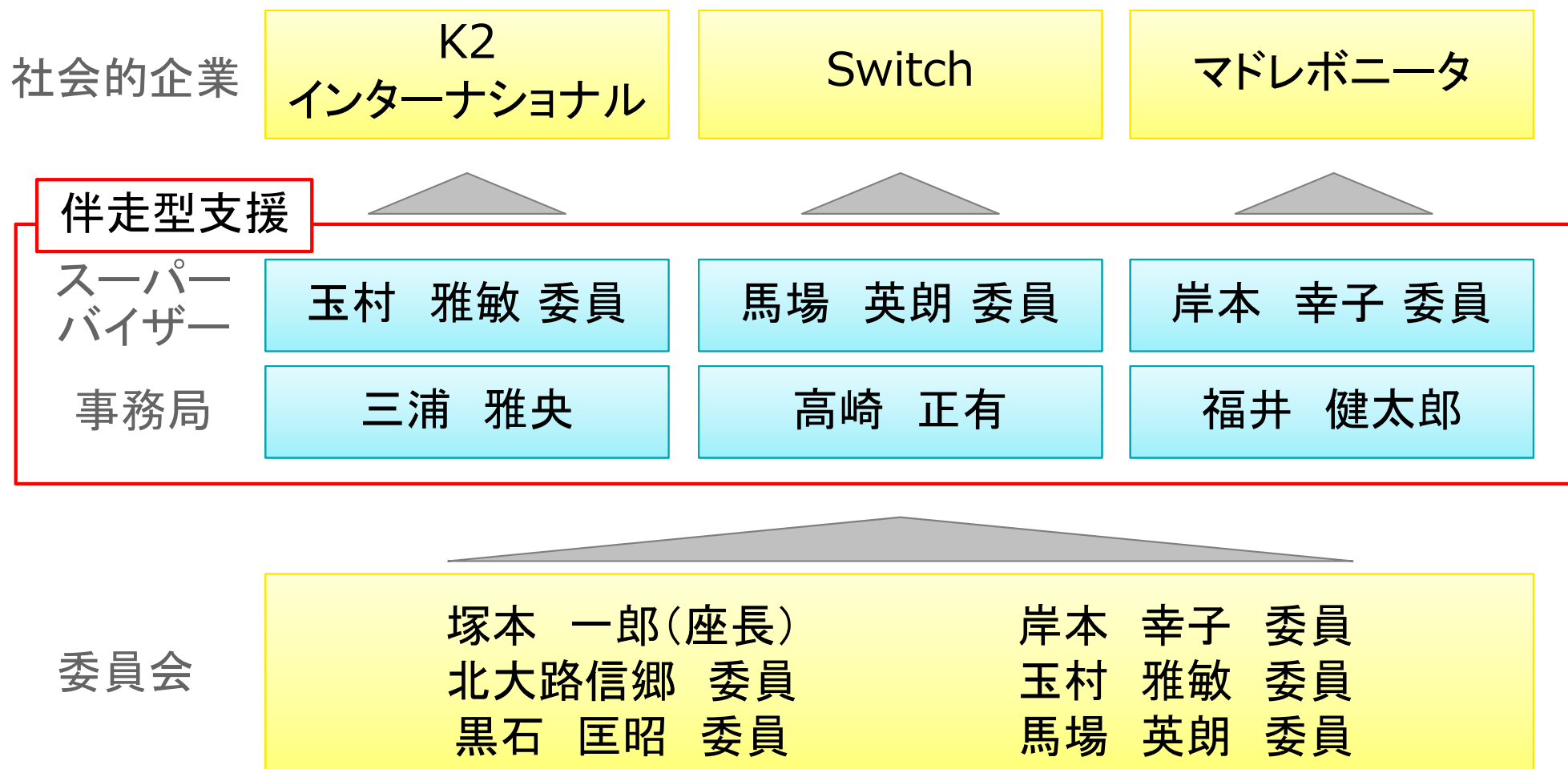
特定非営利活動法人 マドレボニータ



5. 伴走型支援の概要

伴走型支援の体制

各社の伴走型支援の体制として、「スーパーバイザー」(有識者)と、「事務局」(新日本有限責任監査法人・パブリックアフェアーズグループの担当者)とを各1名配置



伴走型支援における主な役割分担

スーパーバイザーと事務局との役割分担に基づき各社を支援

■スーパーバイザーの役割

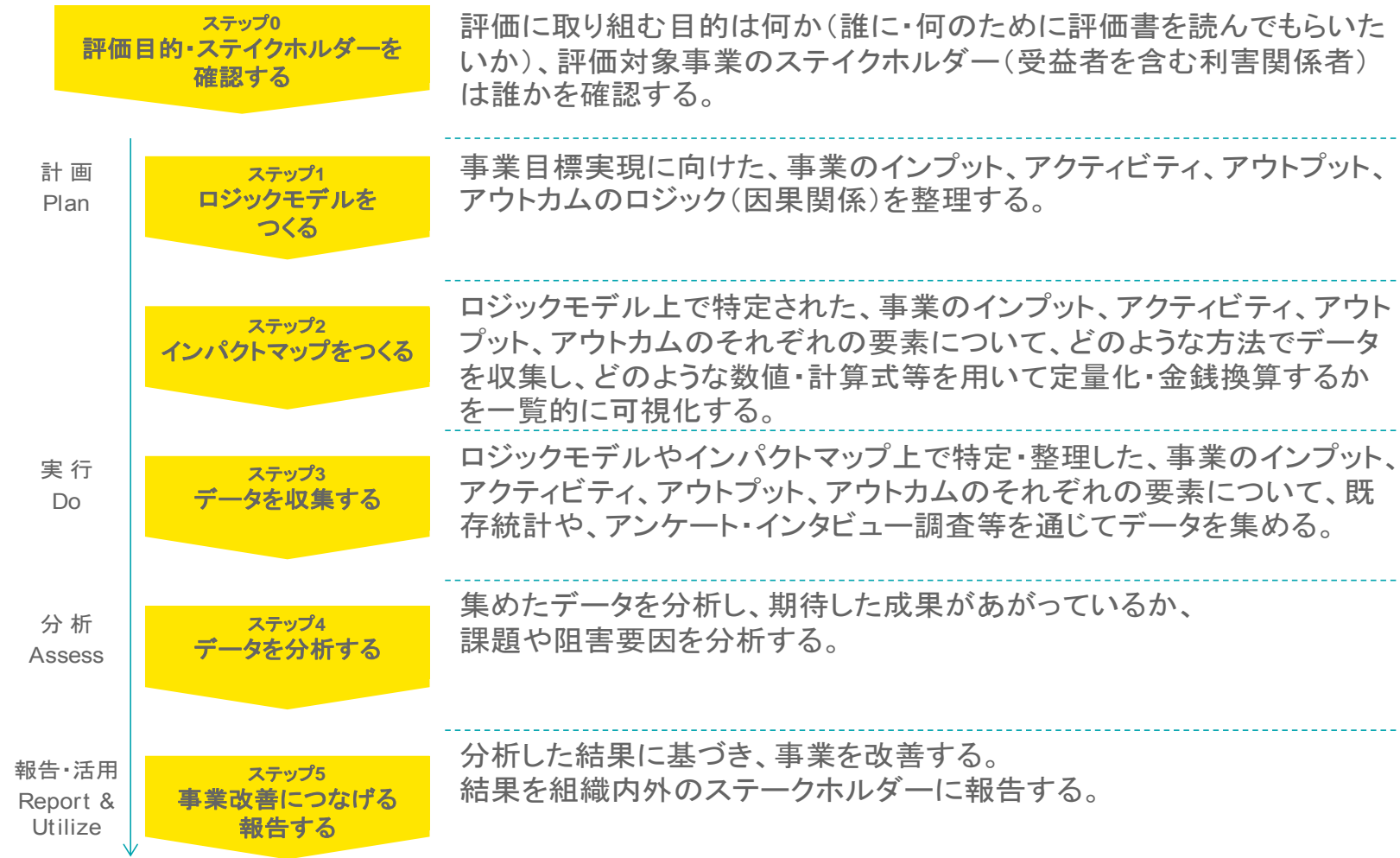
- 評価に関する技術的助言
- 原則として月に1回の頻度で、社会的企業＋事務局担当者と議論

■事務局担当者の役割

- スーパーバイザーの技術的助言を受けて、
 - 評価の技術的支援 【詳細は後述】
 - 進捗管理
 - スーパーバイザーが参加する議論の場に加え、対面、電話・メールでの相談に対応
-

評価のステップ

G8社会的インパクト投資国内諮問委員会のマニュアルを踏まえたステップで評価を実施



出典) G8社会的インパクト投資国内諮問委員会社会的インパクト評価ワーキング・グループ「社会的インパクト評価ツールセット 実践マニュアル」(Vol.1.0)を基に新日本有限責任監査法人作成

評価実践上の課題と伴走型支援 ステップ1 ロジックモデル作成

Before

- ▶ どのような「ロジック」「パス」を経てアウトカムに至るのか？
- ▶ ロジックモデルやアウトカムは 本当に「これで良い」のか？

ステップ0
評価目的・ステイクホルダーを
確認する

計画
Plan

ステップ1
ロジックモデルを
つくる

実行
Do

ステップ2
インパクトマップをつくる

分析
Assess

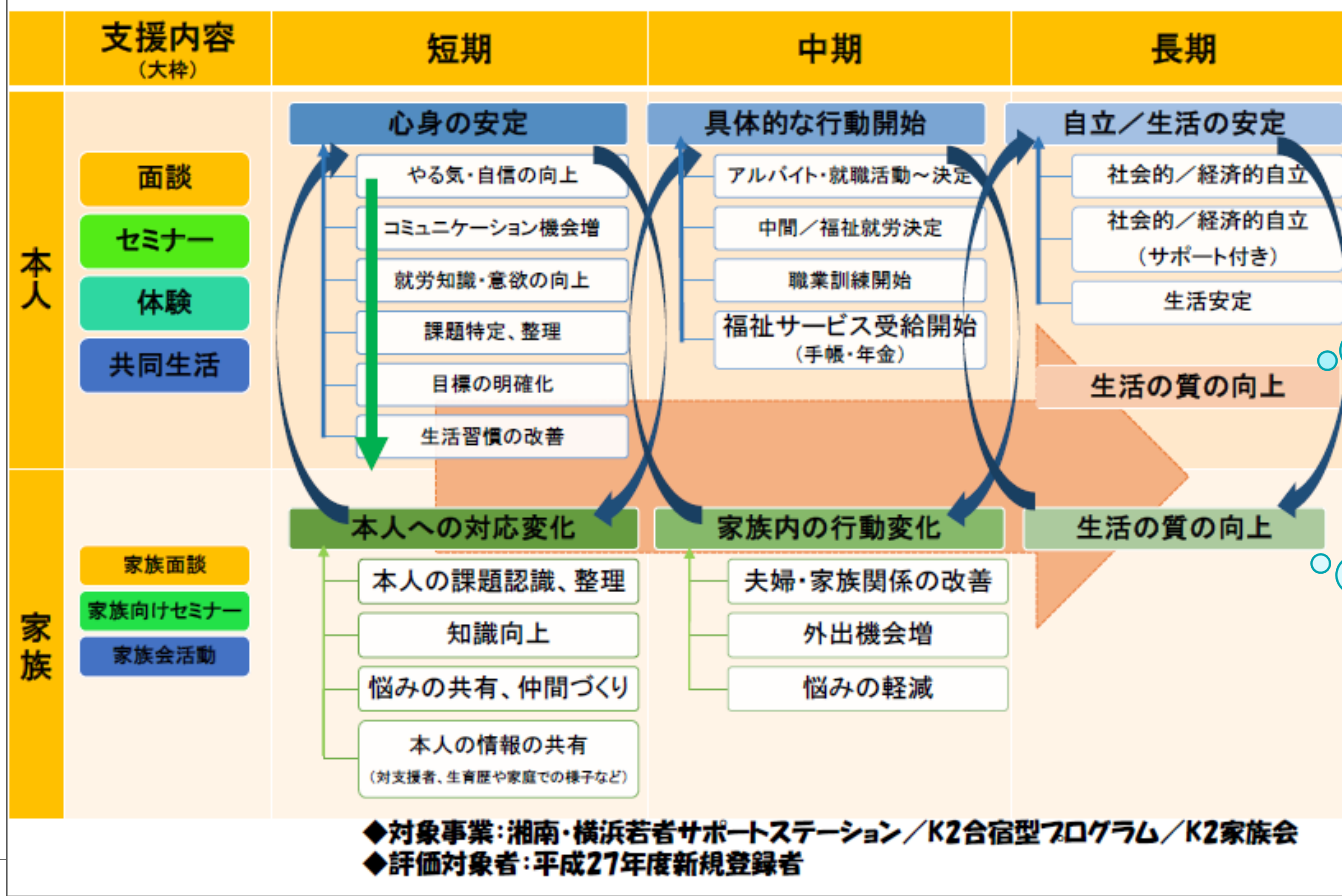
ステップ3
データを収集する

報告・活用
Report &
Utilize

ステップ4
データを分析する

ステップ5
事業改善につなげる
報告する

K2ロジックモデル(仮)



ロジックモデルは
どうなったら
「完成」なのか？

評価に使える
(耐える?)
ロジックモデルとは？

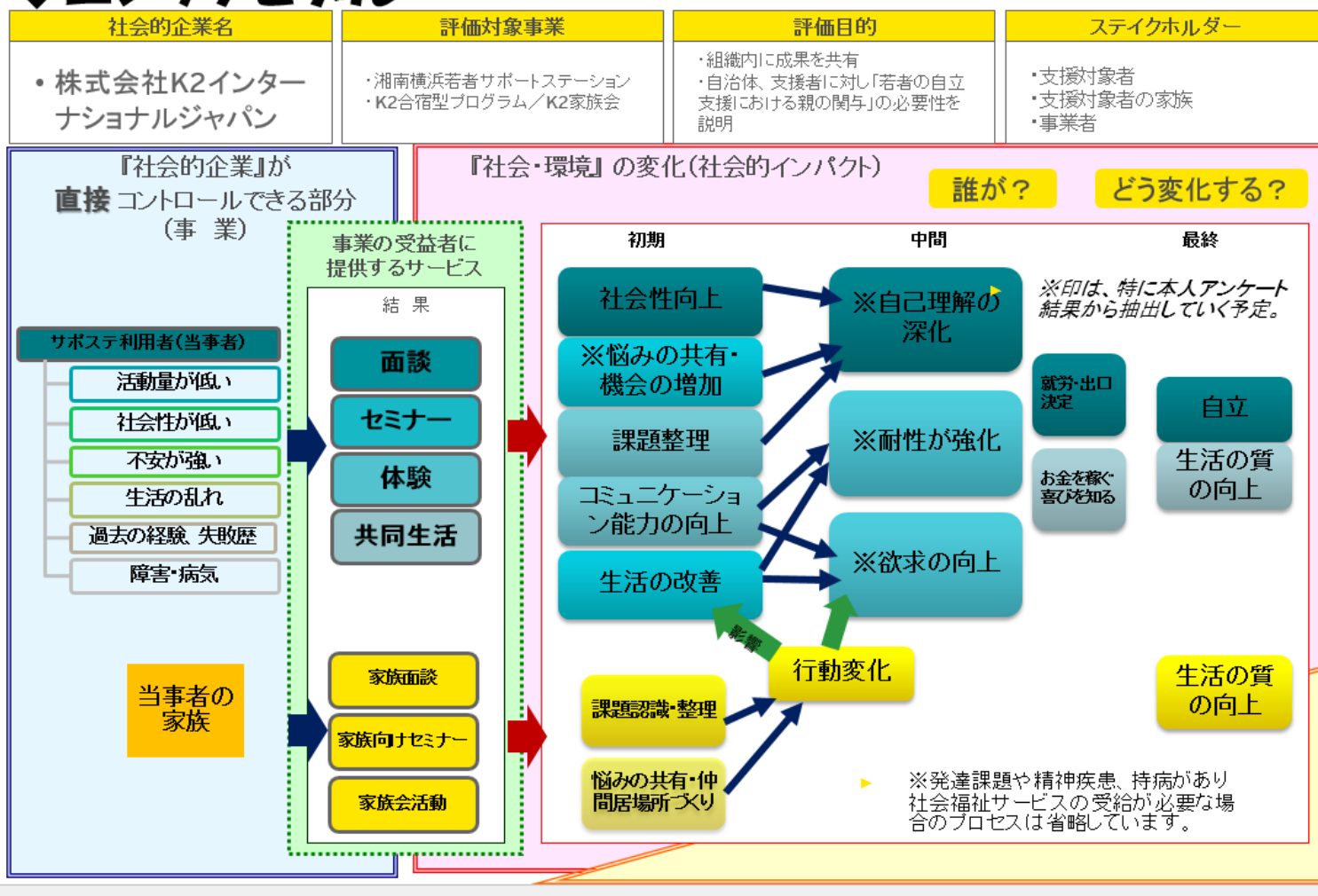
評価実践上の課題と伴走型支援 ステップ1 ロジックモデル作成

After

- ▶ ロジックモデルに対する、関係者の「納得・腹落ち感」の担保
causal linkage
- ▶ それぞれのアウトカムの「因果関係」と「評価可能性」の双方の担保
evaluability

◆ロジックモデル

ロジックモデル 2016/09/02版



評価実践上の課題と伴走型支援 ステップ2 インパクトマップ作成

スタッフの
評価目的・ステイクホルダーを
確認する

計画
Plan

ステップ1
ロジックモデルを
つくる

実行
Do

ステップ3
データを収集する

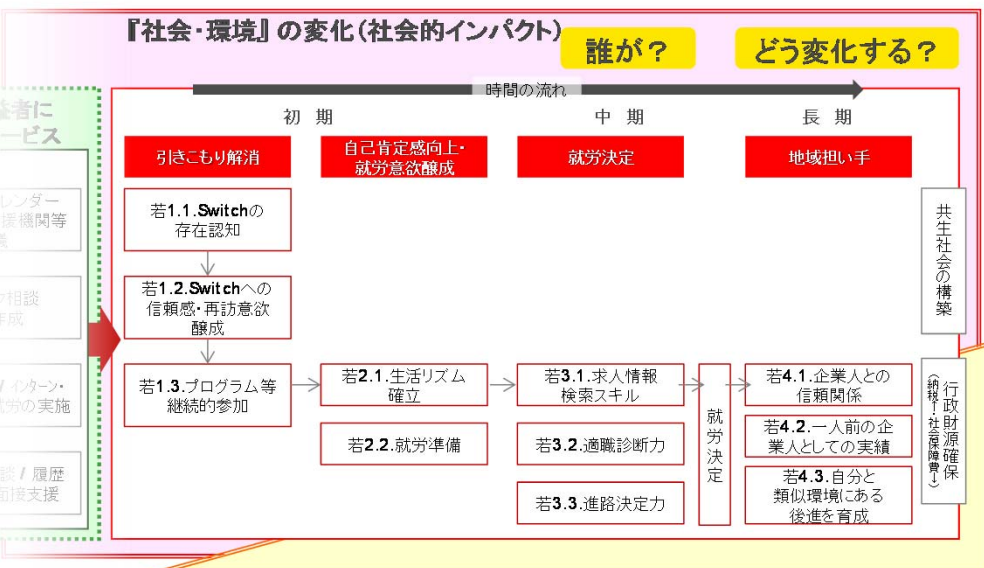
分析
Assess

ステップ4
データを分析する

報告・活用
Report &
Utilize

ステップ5
事業改善につなげる
報告する

Before ▶ 各アウトカムの達成状況・規模感をどうやって確認するか？



ロジックモデルで
設定したアウトカムを
どう測定する？

結果・成果の別		ステイクホルダー【誰が】 誰が変化するのか？ 誰に影響を与えるのか？	期待される変化【どうなる】 どのような変化をもたらすのか？ どのような変化をもたらしたいのか？
A	マイルストーン1	若年無業者（利用者）	引きこもり状態が解消する。
1	1.1 初期成果	若年無業者	石巻 NOTE の存在を知る。
2	1.2 初期成果	若年無業者（利用者）	石巻 NOTE の担当者に信頼感を持つ。 再び石巻 NOTE に来ようと思う。
3	2.1 初期成果	若年無業者（利用者）	石巻 NOTE プログラム等に継続的に参加する。
B	マイルストーン2	若年無業者（利用者）	自己肯定感が向上し、就労に向けて意欲が醸成される
3	2.2 中間成果	若年無業者（利用者）	生活リズムが確立する。
4	2.3 中間成果	若年無業者（利用者）	働く意欲・働く自信が身につく。
C	マイルストーン3	若年無業者（利用者）	就職活動を始める
D	マイルストーン4	若年無業者（利用者）	就労が決定する
5	3.1 中間成果	若年無業者（利用者）	自分で求人情報を検索するスキルが身につく。
6	3.2 中間成果	若年無業者（利用者）	自分に合う業種、職種を見つける力が身につく。
7	3.3 中間成果	若年無業者（利用者）	自分で将来の就労見通しを立てられる。
E	マイルストーン5	若年無業者（就労決定者）	地域の担い手として活躍する
8	4.1 最終成果	若年無業者（就労決定者）	就労先の上司・同僚等と信頼関係を結ぶ。
9	4.2 最終成果	若年無業者（就労決定者）	一人前の企業人として実績を積む。
10	4.3 最終成果	若年無業者（就労決定者）	自分と類似の環境にある後進を育成する。

評価実践上の課題と伴走型支援 ステップ2 インパクトマップ作成

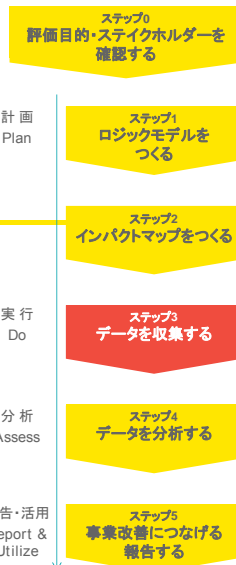
After

- ▶ 統計データ、先行調査結果、業務データ、アンケートデータ等、ありとあらゆるデータを駆使して、アウトカムを定量化・金銭換算化

結果・成果の別		指標 どうやって測定するか？	指標値	【A】人数	【B】金銭的代理指標	【C】 死荷重・寄与度	【A×B×C】 金銭的価値
A	マイルストーン1	外出の回数が増えた者の数・割合 (石巻 NOTE 参加前・後)	72.3%	80 人	○外出することで新たに生まれた経済活動 = 外出が増えたと回答した者の回答 ・外出回数 (増分) 6.8 回/月 ・支出金額 3,306 円/回 ※利用者アンケート Q3-2	59.9% (問3㊸)	1,297 万円/年
1	1.1 初期成果	地域の若年無業者における Switch の認知度	—				
2	1.2 初期成果	石巻 NOTE スタッフへの信頼感・継続相談意向	87.5%				
3	2.1 初期成果	石巻 NOTE プログラム参加回数・人数	延べ 2,458 人 平均 17.6 回/人				
B	マイルストーン2	働く自信がついた者の数・割合 (石巻 NOTE 参加前・後)	55.3%	61 人	○自己肯定感・勤労意欲を醸成する代替サービスの市場価値 ・カウンセリング費 4,850 円/回 ・認知行動療法 (CBT) 面接数 18 回 ※日本臨床心理士会「第7回臨床心理士の動向ならびに意識調査」、厚生省「うつ病の認知療法・認知行動療法治療者用マニュアル」	61.5% (問4㊸)	327 万円
3	2.2 中間成果	起床、食事、睡眠等の規則正しさ	65.3%				
4	2.3 中間成果	働くことの意欲・働くことの自信	67.3%/44.9%				
C	マイルストーン3	就職活動をしている者の数・割合	48.9%	54 人	○就職活動を支援する代替サービスの市場価値 ・有料キャリアカウンセリング費 16,200 円/時×7時間 ※特定非営利法人キャリアカウンセリング協会が行う場合のキャリアカウンセリング費用。時間数は仮に終日実施したと仮定して設定。	52.1% (問5㊸)	319 万円
D	マイルストーン4	就労決定者数 正社員 4人 パート・アルバイト 23人 福祉的就労+分類不明 6人	33 人 /140人	33 人	○正社員 (一般労働者) ・宮城・20~24歳の平均年収 283 万円/年 ○パート・アルバイト (短時間労働者) ・宮城の平均年収 113 万円/年 ※平成27年賃金構造基本統計調査 ○福祉的就労 ・宮城県内就労支援事業所 (就労継続支援 A 型) の平均工賃 (賃金) 59,873 円/月×12か月		
5	3.1 中間成果	仕事についての情報を調べられる	59.2%				
6	3.2 中間成果	どんな仕事に就きたいかのイメージ	44.9%				
7	3.3 中間成果	仕事に必要な知識・技能のイメージ	51.0%				
E	マイルストーン5	若者の地域貢献度合い	14.9%	21 人	(金額換算せず)	67.2% (問6㊸)	—
8	4.1 最終成果	上司や同僚との信頼関係の評価。職場で必要とされている	16.2%				
9	4.2 最終成果	この会社で働き続けるイメージ	13.3%				
10	4.3 最終成果	自分と同じ状況におかれた人の手助けをしたいと思いますか	19.2%				

評価実践上の課題と伴走型支援

ステップ3 データ収集



Before

- ▶ せっかくアンケートをするのだから、あれもこれも聞きたい
業務改善にも使いたいし、アウトカム・インパクトどこまで持続するのも聞きたいし、
利用者の生の声を聴いてみたいし...
- ▶ 当初考えた設問数は最大160問

初期値	産後2ヶ月	初期／修了直後	8	中間(1)／復職2ヶ月前	6	中間(2)／復職後1年	3
1)	自分が「一日中寝込む」または「入院する」ということがあった	A 1) 自分が「一日中寝込む」または「入院する」ということがあった	◎ A	1) 自分が「一日中寝込む」または「入院する」ということがあった	○ A	1) 自分が「一日中寝込む」または「入院する」ということがあった	○ A
2)	健康を保つために体を動かしたりセルフケアをした	A 2) 健康を保つために体を動かしたりセルフケアをした	◎ A	2) 健康を保つために体を動かしたりセルフケアをした	○ A	2) 健康を保つために体を動かしたりセルフケアをした	○ A
3)	30	初期値		15	中間(1)／復職2ヶ月前	8	中間(2)／復職後1年
4)	1) 私は今、自分らしく、生きている。(旧「アイデンティティ統合のイメージを持たた」)	A 1) 私は今、自分らしく、生きている。(旧「アイデンティティ統合のイメージを持たた」)	○ A	1) 私は今、自分らしく、生きている。(旧「アイデンティティ統合のイメージを持たた」)	◎ A	1) 私は今、自分らしく、生きている。(旧「アイデンティティ統合のイメージを持たた」)	◎ A
5)	2) 友人と子ども以外の話をしている	B 2) 友人と子ども以外の話をしている	◎ B	2) 友人と子ども以外の話をしている	○ B	2) 友人と子ども以外の話をしている	○ B
6)	3) 子どもを預ける	初期値		11	中間(1)／復職2ヶ月前		
7)	4) 人に頼る	B 1) 家族以外と1週間以上に会話しないことがある(レジ・宅配便などを除く)	◎ B	1) 家族以外と1週間以上に会話しないことがある(レジ・宅配便などを除く)	○ B	1) 家族以外と1週間以上に会話しないことがある(レジ・宅配便などを除く)	○ B
8)	5) 子育ての	B 2) 1時間以上の外出を週3回以上している	○ B	2) 1時間以上の外出を週3回以上している	◎ B	2) 1時間以上の外出を週3回以上している	◎ B
6)	6) 自分には	初期値		7	中間(1)／復職2ヶ月前		3
	4) 復職が	A 1) パートナーと協力して豊かな人生を歩みたい	◎ A	1) パートナーと協力して豊かな人生を歩みたい	○ A	1) パートナーと協力して豊かな人生を歩みたい	○ A
	5) 育休期	A 2) パートナーといると本当に愛していると実感する	○ A	2) パートナーといると本当に愛していると実感する	◎ A	2) パートナーといると本当に愛していると実感する	◎ A
	6) 何らか	A 3) パートナーと人生や仕事について話をしている	○ A	3) パートナーと人生や仕事について話をしている	◎ A	3) パートナーと人生や仕事について話をしている	◎ A
	7) 復職後	A 4) パートナーとの平日1日の平均会話時間は①15分未満 ②15分以上1時間未満 ③1時間以上2時間未満 ④2時間以上	◎ A	4) パートナーとの平日1日の平均会話時間は①15分未満 ②15分以上1時間未満 ③1時間以上2時間未満 ④2時間以上	○ A	4) パートナーとの平日1日の平均会話時間は①15分未満 ②15分以上1時間未満 ③1時間以上2時間未満 ④2時間以上	○ A
	8) この先	A 5) 我が家は「女性が家事・育児の主となる担い手である」という前提だ	○ A	5) 我が家は「女性が家事・育児の主となる担い手である」という前提だ	◎ A	5) 我が家は「女性が家事・育児の主となる担い手である」という前提だ	◎ A
	9) 1週間	A 6) パートナーは子どもの生活に合わせた働き方をしている(旧「パートナーの家事や育児の取り組みに満足している」)	◎ A	6) パートナーは子どもの生活に合わせた働き方をしている(旧「パートナーの家事や育児の取り組みに満足している」)	○ A	6) パートナーは子どもの生活に合わせた働き方をしている(旧「パートナーの家事や育児の取り組みに満足している」)	○ A
	10) 自分はお	A 7) 産後のパートナーシップは重要だ	◎ B	7) パートナーに自分の言葉で気持ちや意志を伝えることができる	○ B	7) パートナーに自分の言葉で気持ちや意志を伝えることができる	○ B
	11) 他人にどう	C 8) パートナーは私に自分の言葉で気持ちや意志を伝えてくれている	◎ B	8) パートナーは私に自分の言葉で気持ちや意志を伝えてくれている	○ B	8) パートナーは私に自分の言葉で気持ちや意志を伝えてくれている	○ B
	12) 育児に対	C 9) 「パートナーシップ」というものを客観的に意識している	◎ C	9) 産後のパートナーシップは重要だ	○ C	9) 産後のパートナーシップは重要だ	○ C
	13) 自分を主	B 10) パートナーに自分の言葉で気持ちや意志を伝えることができる	◎ B	10) 「パートナーシップ」というものを客観的に意識している	○ B	10) 「パートナーシップ」というものを客観的に意識している	○ B
	14) 自分の気	B 11) パートナーは私に自分の言葉で気持ちや意志を伝えてくれている	◎ B	11) 子どもを夫に預けて外出したことがある	○ C	11) 子どもを夫に預けて外出したことがある	○ C
	15) 「こうあり	C 12) 子どもを夫に預けて外出したことがある	◎ C				

何をどこまで「聞きたい」か？
「聞くべき」か？
「聞ける」のか？

評価実践上の課題と伴走型支援

ステップ3 データ収集

After

- ▶ 「インパクトを測る」質問にフォーカス。Before-After、With-Withoutでの比較を意識した調査票設計。
- ▶ 聞きたい内容と回答者に与える負担とを比較考量。最終的な設問数は約60問にまで縮減（回答者負担を考えればギリギリのラインと判断）

5. 【「産後ケア教室」を受講した方へ】「産後ケア教室」受講前後の変化や状況について。

まずは直近の産育休中に受講された「産後ケア教室」の受講前から終了後にあなたに起きた変化や状況について教えてください。2コース以上リピート受講された方は、初回の受講について教えてください。

※7. あなたが「産後ケア教室」を受講したのは、産後何ヶ月でしたか？

一回答者の内訳を把握するのみ。縦向きクロスには使わない。

- ①一産後2ヶ月
- ②産後3ヶ月
- ③産後4ヶ月
- ④産後5ヶ月
- ⑤産後6ヶ月
- ⑥産後7ヶ月以降

8. 「産後うつ」になりましたか？

一受講前に①②③の回答者が、受講後④になった割合。

	①「産後うつ」の診断を受けていた/治療中だった。	②診断は受けていないが「産後うつ」だったと思う。	③「産後うつ」の一手前だったと思う。	④全く「産後うつ」ではなかった。
産後ケア教室受講前				
産後ケア教室終了後				

9. 次のような「産後の体のダメージ」は解消しましたか？

一①②の割合。

	①解消した。	②やや解消した。	③あまり解消しなかった。	④解消しなかった。	⑤もともとそのようなダメージはなかった。
体の痛み（腰、首、手足など）					
骨盤やお腹の筋力の衰え					
肌もれや痒みなどのマイナートラ					

10. 育児への過度なイライラ感や不安感がありましたか？

一受講前に①②③の回答者が、受講後④⑤になった割合。

	①あった。	②ややあった。	③あまりなかった。	④なかった。
産後ケア教室受講前				
産後ケア教室終了後				

11. 自分の子ども（上の子ども）に対して「虐待」をしてしまうことありましたか？

※虐待とは…厚生労働省「児童虐待の態様と現状」より

身体的虐待/殴る、蹴る、投げ落とす、激しく揺さぶる、竹付どきをさせる、殴らせる、首を絞める、裸などにより一室に閉じこもる など

性的虐待/子どもへの性的行為、性的行為を見せる、性器を触る又は触らせる、ポルノグラフィの提示、にする など

ネグレクト/食に閉じこもる、食事を与えない、ひどく不潔にする、自動車の中におくする、重い荷物になっても何にも動いて行かない など

心理的虐待/言葉による脅し、無視、きょうだい間での差別意識、子どもの目の前で実物に対して暴力をふるう（ドムスティック・パイオレンス：DVA） など

一受講前に①②③の回答者が、受講後④⑤になった割合。

	①虐待をたびたびしてしまふことがあった。	②虐待をしてしまふことがあった。	③虐待はしてないが、してしまふ可能性があることがあった。	④虐待をしていないし、してしまふようになる不安をおぼえたこともなかった。
産後ケア教室受講前				
産後ケア教室終了後				

12. 1時間以上の外出を週何回程度していましたか？

一受講前①の回答者が、受講後②③になった割合。

	①3回以上	②2回程度	③1回程度	④ほとんどなし
産後ケア教室受講前				
産後ケア教室終了後				

13. 「社会とのつながりを取り戻そう」という希望はありましたか？

一受講前①②の回答者が、受講後③④になった割合。

	①あった。	②ややあった。	③あまりなかった。	④なかった。
産後ケア教室受講前				
産後ケア教室終了後				

14. 「医療」に向けての期待をな気持ちをもっていましたか？

一受講前①②の回答者が、受講後③④になった割合。

	①もっていた。	②ややもっていた。	③あまりもっていなかった。	④もっていません。
産後ケア教室受講前				
産後ケア教室終了後				

15. パートナー（配偶者）との平日1日の平均会話時間はどれくらいでしたか？

一受講前①の回答者が、受講後②③になった割合。

	①15分未満	②15分以上1時間未満	③1時間以上2時間未満	④2時間以上	⑤パートナーはいない
産後ケア教室受講前					
産後ケア教室終了後					

16. 産後ケア教室終了後、パートナーに自分の言葉で気持ちや意見を伝えられるようになりましたか？

一①②の回答者の割合。

- ①伝えられるようになった。
- ②やや伝えられるようになった。
- ③あまり伝えられるようにならなかった。
- ④全く伝えられるようにならなかった。
- ⑤産後ケア教室受講前から伝えられていた。
- ⑥パートナーはいない。

評価実践上の課題と伴走型支援

ステップ4 データ分析

ステップ0
評価目的・ステイクホルダーを
確認する

計画
Plan
ステップ1
ロジックモデルを
つくる

ステップ2
インパクトマップをつくる

実行
Do
ステップ3
データを収集する

分析
Assess
ステップ4
データを分析する

報告・活用
Report &
Utilize
ステップ5
事業改善につなげる
報告する

- アンケートデータのクリーニング、集計(単純集計・クロス集計)、統計解析(t検定、 χ^2 検定、...)等を実施

対応サンプルの統計量

	平均値	N	標準偏差	平均値の標準 誤差
ペア 1	2.85	39	.875	.140

対応サンプルの相関係数

	N	相関係数	有意確率
Q2_1Amae & Q2_1Aato	39	.496	.001
Q2_1Bmae & Q2_1Bato	44	.406	.006
Q2_1Cmae & Q2_1Cato	46	.467	
Q2_1Dmae & Q2_1Dato	46	.616	
Q2_1Emae & Q2_1Eato	46	.528	
Q2_1Fmae & Q2_1Fato	47	.870	

集めたデータを
どう「料理」するか、
当初から意識した
調査票設計

得られた結果の
信頼性・妥当性を
統計的に確認
(あくまで補強)

	平均値	N	標準偏差	平均値の標準 誤差
ペア 7	2.68	47	.887	.129

対応サンプルの検定

		対応サンプルの差					t 値	自由度	有意確率 (両 側)
		平均値	標準偏差	平均値の標準 誤差	差の 95% 信頼区間				
					下限	上限			
ペア 1	Q2_1Amae - Q2_1Aato	.615	.877	.140	.331	.900	4.382	38	.0001 ***
ペア 2	Q2_1Bmae - Q2_1Bato	.659	.963	.145	.366	.952	4.539	43	.0000 ***
ペア 3	Q2_1Cmae - Q2_1Cato	.500	.913	.135	.229	.771	3.715	45	.0006 *
ペア 4	Q2_1Dmae - Q2_1Dato	.304	.866	.128	.047	.561	2.384	45	.021 *
ペア 5	Q2_1Emae - Q2_1Eato	.739	.855	.126	.485	.993	5.866	45	.0000 ***
ペア 6	Q2_1Fmae - Q2_1Fato	.064	.438	.064	-.065	.192	1.000	46	.323

評価実践上の課題と伴走型支援 ステップ5 報告

スタッフの
評価目的・ステイクホルダーを
確認する

計画
Plan

ステップ1
ロジックモデルを
つくる

ステップ2
インパクトマップをつくる

実行
Do

ステップ3
データを収集する

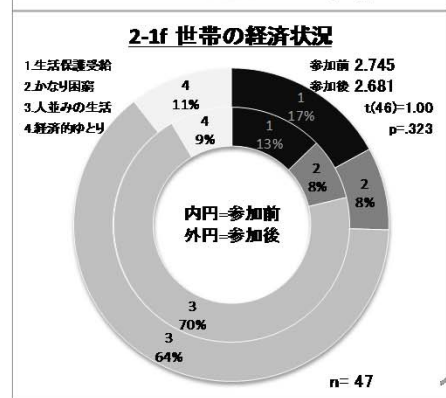
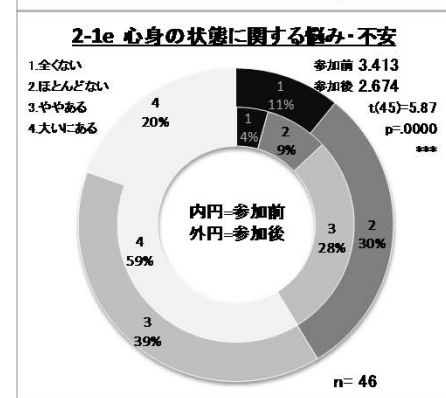
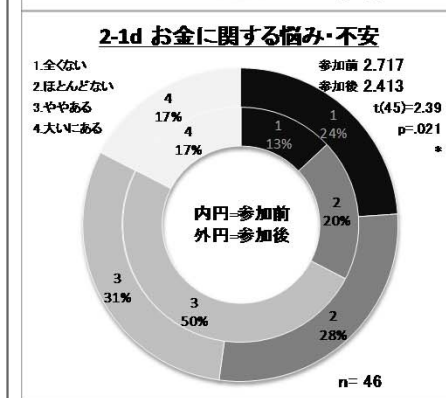
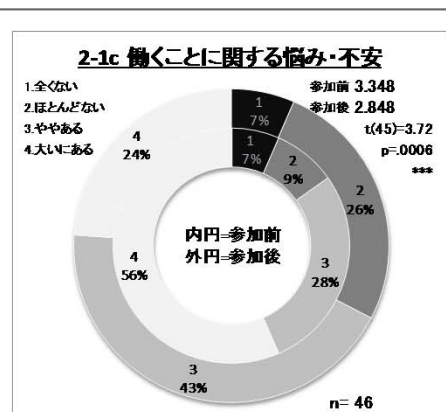
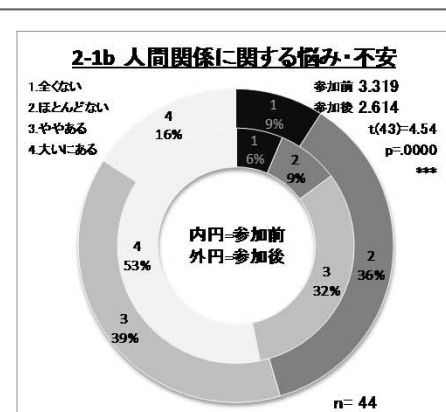
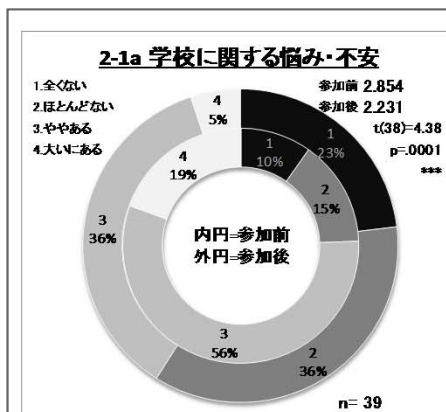
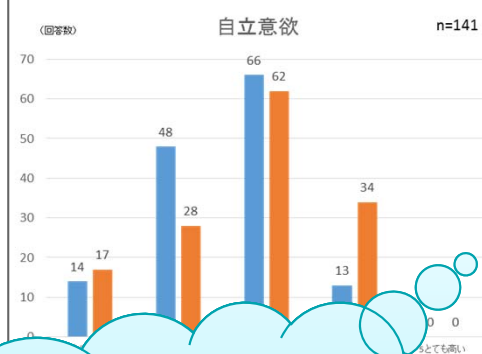
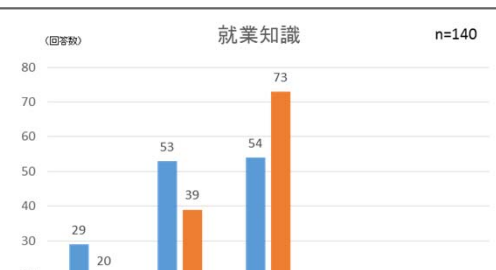
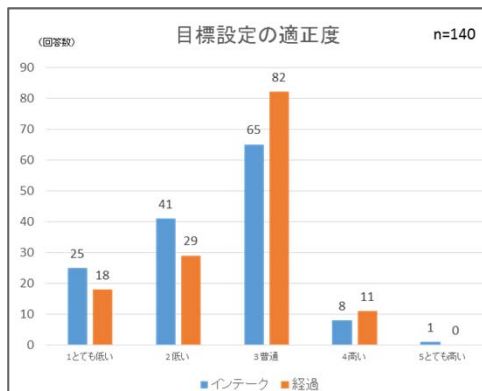
分析
Assess

ステップ4
データを分析する

報告・活用
Report &
Utilize

ステップ5
事業改善につなげる
報告する

- 収集・分析したデータをグラフ化・ビジュアル化し、伝えたいメッセージをビビッドに示すための工夫を提供



収集・分析した
結果を伝えたい人に
わかりやすく示す
ためには？

伴走型支援の実施内容のまとめ

スーパーバイザーの技術的助言の下、事務局担当者は以下の内容を実施

- ① 評価の技術支援
 - ② 技術移転・研修
 - ③ ファシリテーター／ディスカッション・パートナー
 - ④ 進捗管理
 - ⑤ 日々の悩みの相談相手
-

伴走型支援の実施内容

① 評価の技術支援

アウトプットイメージの提示、社会的企業の作業内容の確認・添削、分析の実務を担当

- 各ステップでのアウトプットイメージの提示
(ロジックモデル、インパクトマップ、アンケート調査票、インパクトレポート/等)
 - 各ステップでのアウトプットの内容確認・添削
 - アウトプットのドラフト作成 (例: アンケート票設計、インタビュースケルトン/等)
 - データ収集 (例: 既存統計(国・地方)、先行調査研究(国・地方・民間・海外)/等)
 - データ分析 (例: アンケートデータ・統計解析(統計検定、多変量解析)/等)
-

伴走型支援の実施内容

②技術移転・研修

事前研修会でロジックモデル作成の講義・ワークショップを行った他、ミーティング等に際し、評価に関する手法について技術移転を実施



主な評価手法の例 ~基本的な用語

『社会的企業』が直接コントロールできる部分 (事業)

事業対象者に提供するサービス 生産 利用

資源 (インプット) → 活動 (アウトプット) → 結果 (アウトプット)

評価の世界でよく用いられる、『資源』、『活動(アウトプット)』、『成果(アウトカム)』の関係は、上図の係にある。

- 一資源(インプット) : 資金、人員・時間、場所・施設
- 一活動(アウトプット) : 社会的企業のスタッフが実施
- 一結果(アウトプット) : 社会的企業のスタッフの活動
- 一成果(アウトカム) : サービスにより産み出される

Page 12

主な評価手法の例 ~ロジックモデルと評価のデザイン

事業の『費用対効果』の評価 (Assessment of Program Cost & Efficiency)

事業の『インパクト』の評価 (Assessment of Program Impact)

事業の『プロセス』の評価 (Assessment of Program Design & Theory)

事業に対する『ニーズ』の評価 (Assessment of Need for the Program)

作業点検 (Checklist)

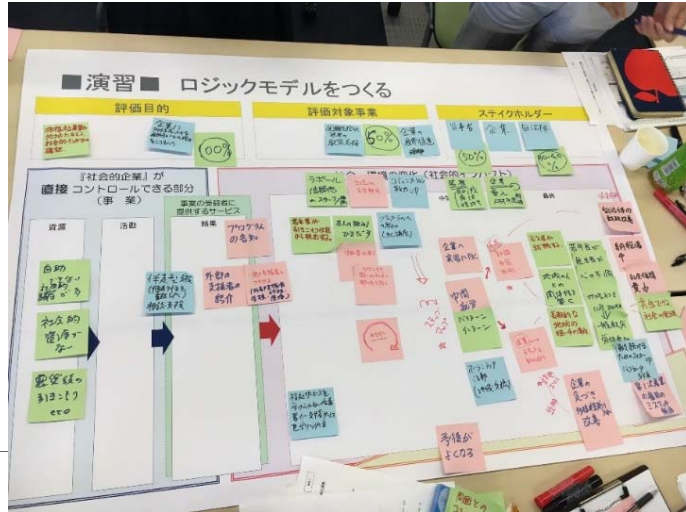
ロジックモデル (Logic Model)

評価の基本 (Basic Evaluation)

- 評価とは、事業の実施による成果が発現しているか、その有無を確認すること、その要因分析・立証を行うことを通じて、事業の改善に資すること。
- 評価で検証するポイント(評価の関り)は、階段構造になっており、下の段の評価があってはじめて、上の段の評価に意味がでける。

Reviz Library, Freeman (2004), Evaluation 7th edition, p.40

Page 13



伴走型支援の実施内容

③ファシリテーター／ディスカッションパートナー

社会的企業内での議論においてファシリテーションの他、ディスカッションパートナーとして関与



出典)K2インターナショナルジャパン・第1回中間報告会資料

伴走型支援の実施内容

④進捗管理

各研究会・報告会に向けて、評価の進捗を確認し、課題に応じた支援を実施

会議等	実施日
■第1回研究会	2016年6月29日(水)
○事前研修会	2016年7月11日(月)
■第2回研究会	2016年8月2日(火)
◎第1回中間報告会	2016年9月2日(金)
■第3回研究会	2016年10月31日(月)
◎第2回中間報告会	2016年12月1日(木)
■第4回研究会	2017年2月14日(火)
◎最終報告会【本日】	2017年3月1日(水)

伴走型支援の実施内容

⑤ 日々の悩みの相談相手

社会的企業と密なコミュニケーションをとり、評価において「困ったこと」を気軽に相談できる相手となることを目指した

スーパーバイザー同席での議論（頻度：原則1回／月）

+

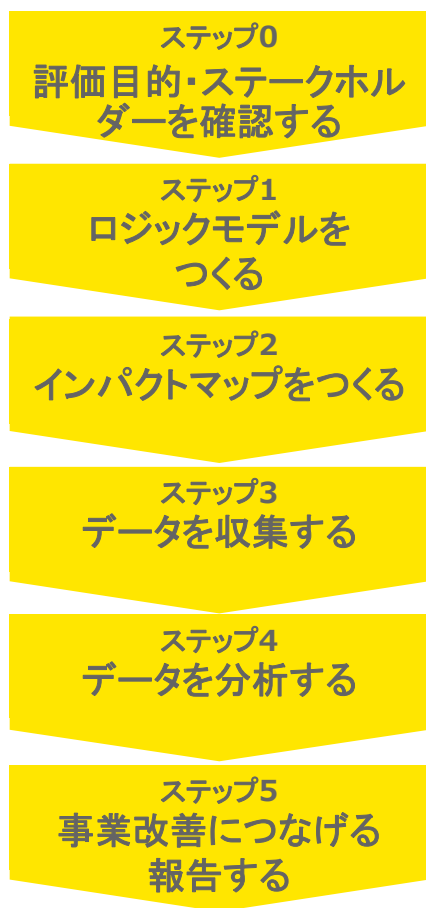
対面でのミーティング（頻度：1～2回／月）

電話・メールでの相談（頻度：研究会・報告会前は数回／日）

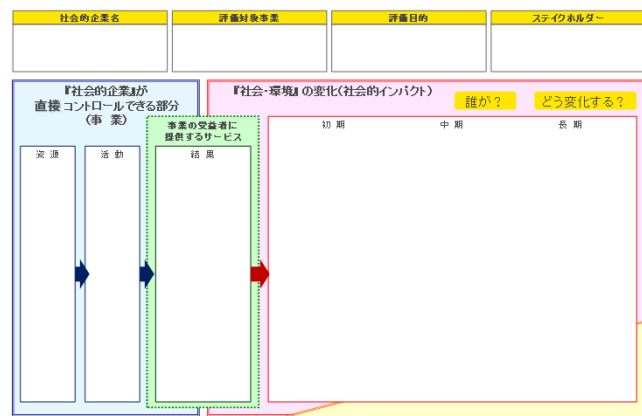
伴走型支援の成果物(3月末に向けて)

本事業での評価の実践を踏まえ、「社会的インパクト評価」を他の社会的企業に実装するための評価プロセスやツールの標準化・簡素化について検討

評価のステップ



評価のツール(各ステップのアウトプット)



結果・成果の別 (OKR, OKR以外, 中間成果, 最終成果)	ステークホルダー(誰が) 誰が実行するの? 誰に委ねるの? 誰に委ねるの?	評価の熟い(じ)度(実在する) どのくらい実在しているの? どのくらい実在しているの?	指標 どうやって測るの?	データ どこでどうやって情報を集めるの? (アンケートの場合は回答数)
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

10. 変化
- 事業改善

11. 変化
- 事業改善

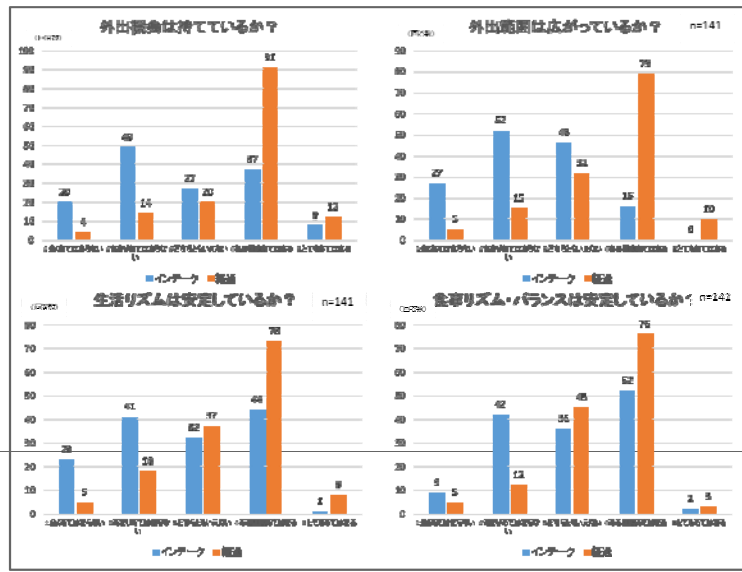
12. 変化
- 事業改善

13. 「変化」に向けての取り組み(取り組み)と取り組みはありましたか?
- 事業改善の取り組みが、実施されたことになったか。

14. 「結果」に向けての取り組み(取り組み)と取り組みはありましたか?
- 事業改善の取り組みが、実施されたことになったか。

15. パートナー(関係者)との関係(関係)が改善されたことになりましたか?
- 事業改善の取り組みが、実施されたことになったか。

16. 関係者(関係者)との関係(関係)が改善されたことになりましたか?
- 事業改善の取り組みが、実施されたことになったか。



6. 委員からのコメント

7. 質疑応答
